

令和6年度数理・データサイエンス・AI基礎コア
に係る自己点検・評価書

令和7年4月

国立大学法人千葉大学
情報戦略機構データサイエンス部門

1. 自己点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価 レベル
履修者・修了者増加に向けての取組状況	○学生の履修・修了状況の分析が実施できているか。	<p>【点検結果】</p> <p>データサイエンス部門において、各学部における数理・データサイエンス科目（展開）と共通専門基礎科目（数学・統計学）の履修・修了状況を分析した。数理・データサイエンス科目（展開）については、本プログラムの必修科目である「データサイエンス B」ではなく、「データサイエンス A」を履修している学生が多いことが判明した。また、「データサイエンス A」を履修することで、本プログラム修了に必要な共通専門基礎科目 統計学の指定科目が履修できない状況となっていた。</p> <p>そこで、令和 7 年度からは 5 つの学部で「データサイエンス B」を卒業要件上の必修科目とした。また、統計学の指定科目を含め、共通専門基礎科目（数学・統計学）の卒業要件についての見直しを行った。</p> <p>【評価結果】</p> <p>学生の履修・修了状況の把握・分析を行い、履修者・修了者増加に向けた取り組みに実際に結び付けていることから十分な取り組みを実施している。</p>	A
	○プログラムの履修者増加に向けての取り組みを行っているか。	<p>【点検結果】</p> <p>年度初めの普遍教育ガイダンス及び各学部の履修ガイダンスで本プログラムへの履修を推奨するとともに、全学必修科目であり、本プログラムの必修科目でもある「情報リテラシー」の講義の中で、昨今のデータサイエンスの重要性と絡めて本プログラムを紹介することにより、プログラムへの参加意欲を高めることができ、履修者数が前年度 127 名から 160 名と約 26%増加した。また、令和 7 年度に向けて、本プログラムの必修科目である「データサイエンス B」を 5 つの学部で卒業要件上の必修科目とし、その他の学部に対しても「データサイエン</p>	A

		<p>ス B」の履修を推奨している。さらに、共通専門基礎科目(数学・統計学)の卒業要件の見直しを行い、かつ本プログラムの選択必修科目である「統計学 A」の開講数を増やした。その他、本プログラムの充実を図るため新たな科目を開講している。</p> <p>【評価結果】 本プログラムへの学生の関心を高める取り組みを改善することにより、履修者数が増加したことに加え、卒業要件の見直しを行うことにより、履修者の増加が期待できるため、十分な取り組みを実施している。</p>	
	○プログラムの修了者増加に向けての取り組みを行っているか。	<p>【点検結果】 履修者増加に向けた取り組みに加え、本プログラム修了者にはオープンバッジを発行し、修了したプログラムや修得したスキルを電子的に証明できるようにした。</p> <p>【評価結果】 履修者増加に向けた取り組みに加え、オープンバッジの発行により修了への意欲を高める取り組みを実施していることなどから、修了者の増加が期待できるため、基準を満たしている。</p>	B
授業改善に向けての取組状況	○学生の学習成果を確認しているか。	<p>【点検結果】 個々の学生の学習成果は、各科目において試験・レポート等を通じて確認している。その全体状況として、各科目の単位修得状況・成績分布・GPCA(クラスごとの GPA)を全学教育センターで作成し、全学教育センター普遍教育運営部会及び学部教育委員会、科目運営の数理・データサイエンス科目及び共通専門基礎科目 数学・統計学専門教員集団において確認している。</p> <p>【評価結果】 上記点検結果のとおり、学習成果を確認しており、</p>	B

		基準を満たしている。	
	○プログラム（科目群）の教育目標を定めているか。	<p>【点検結果】 プログラムの教育目標は、「計算機ネットワークと様々なセンサーを用いて膨大なデータが集約され、利用されるデータ駆動型社会の到来について理解し、このような社会において創造的な活動を行う上で必要になるデータ分析・活用能力を修得するとともに、データサイエンス・AI を活用して社会の問題を解決したり、新しい価値を創造することができる人材を育成する」として定めている。そのうち、数理・データサイエンス科目は、「高度情報社会で生きていくために必要であり、あらゆる分野で求められている情報処理・データ活用能力と情報倫理を習得すること」として教育目標を定めており、共通専門基礎科目（数学・統計学）は、諸科学を学習、研究する上での共通語である数学の基礎として、微積分学や線形代数学などについて学ぶ科目群として位置づけ、個々の科目の教育目標はシラバスで明記している。</p> <p>【評価結果】 科目群、各科目のそれぞれの単位で教育目標を定めており、基準を満たしている。</p>	B
	○プログラム（科目群）の教育目標を周知しているか。	<p>【点検結果】 プログラムの教育目標は、データサイエンス部門ウェブサイト等に掲載しており、数理・データサイエンス科目群等の教育目標は、履修案内冊子『Guidance』に掲載し、周知している。また、各授業科目のシラバスにおいても教育目標を明記しており、年度初めの普遍教育ガイダンスや各学部の履修ガイダンスにおいても説明を行っている。</p> <p>【評価結果】 データサイエンス部門ウェブサイト、履修案内冊子、各授業科目のシラバス、履修ガイダンスにより、</p>	B

		それぞれの教育目標を周知しており、基準を満たしている。	
	○教育目標に沿った授業が行われているか。	<p>【点検結果】 授業内容については、データサイエンス部門において、シラバスとモデルカリキュラムの対応を確認している。また、数理・データサイエンス科目群等の運営については、学部等の組織をこえた専門領域の教員集団として、数理・データサイエンス科目専門教員集団等が、授業内容について確認している。具体的には、毎年3月に授業担当者への説明会（集団会議）等を行い、数理・データサイエンス科目（基礎・展開）等の教育目標に沿った授業内容や授業運営について調整を行っている。</p> <p>【評価結果】 データサイエンス部門及び数理・データサイエンス科目専門教員集団等が、教育目標に沿った授業内容、授業運営について調整を行っており、基準を満たしている。</p>	B
	○学生による授業への意見などを収集する機会などを設けているか。	<p>【点検結果】 科目ごとに授業評価アンケートを行っており、数理・データサイエンス科目及び共通専門基礎科目（数学・統計学）についてもその対象として、授業評価アンケートによる学生の意見収集を行っている。また、普遍教育全体を運営する全学教育センターでは、年1回、学生との懇談会（各学部から総計20名程度の学生が参加）を行っており、同懇談会において、授業の状況等について意見を聴取している。</p> <p>【評価結果】 授業評価アンケートの他、学生との懇談会により、学生の意見を聴取しており、基準を満たしている。</p>	B
	○教育成果について検証を行い、そ	<p>【点検結果】 普遍教育の全ての授業科目の成績分布（履修者数、</p>	B

	<p>の結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p>	<p>単位修得状況、成績分布、GPCA) を、全学教育センター普遍教育運営部会及び学部教育委員会に提出し、全学的に確認している。数理・データサイエンス科目及び共通専門基礎科目 数学・統計学もその中に含まれている。この教育成果の確認は、教育課程や授業計画の改善につなげている。また、この成績分布資料は、授業計画を担当する教員集団にも伝え、GPCA が所定の基準値から外れている授業については、必要に応じて教員及び教員集団に対してその状況の確認を行うこと等により、授業内容・方法の改善につなげている。</p> <p>【評価結果】 授業科目の成績分布について、関係の会議及び科目を担当する教員集団において確認し、また、成績分布が所定の基準から外れている科目については、その状況を確認し、教育内容・方法の改善につなげており、基準を満たしている。</p>	
<p>自己点検・評価の実施状況</p>	<p>○自己点検・評価を実施しているか。</p>	<p>【点検結果】 全学教育センターにおいて、前期・後期ごとに、授業別成績分布を作成し、履修者数、評価の割合等を確認したほか、令和7年3月～4月に、データサイエンス部門において、数理・データサイエンス・AI基礎コアに係る自己点検・評価を実施した。</p> <p>【評価結果】 データサイエンス部門が主体となり、自己点検・評価を行っており、基準を満たしている。</p>	<p>B</p>
	<p>○評価結果を学内及び社会に対して広く公開しているか。</p>	<p>【点検結果】 令和6年度の数理・データサイエンス・AI基礎コアに係る自己点検及び評価の結果について、データサイエンス部門ウェブサイトへの公開を予定している。</p> <p>【評価結果】</p>	<p>B</p>

		自己点検・評価を終え、データサイエンス部門ウェブサイトにて公開を予定しており、基準を達成できる見込みである。	
外部者からの意見聴取等の実施状況	○卒業（修了）生や、就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握しているか。	<p>【点検結果】 授業ごとのアンケートに加え、本プログラムを修了予定の学生、及び数理・データサイエンス科目を履修した学生に対して卒業時アンケートを実施した。今後は、卒業後にフォローアップ調査を行い、卒業生のキャリアの進展や満足度を追跡することを検討している。</p> <p>【評価結果】 授業ごとのアンケートに加え、卒業時アンケートを実施していることや卒業後のフォローアップ調査の実施を検討していることから、基準を満たしている。</p>	B
	○産業界からの視点を含めたプログラムへの意見聴取等が行われているか。	<p>【点検結果】 連携協定を締結している企業に対して本プログラムへの意見聴取等を行った。また、今後は千葉県庁とのつながりを活用して、地域の産業や経済のニーズを把握するとともに、本プログラムへの意見聴取を行うことを検討している。</p> <p>【評価結果】 企業に本プログラムへの意見聴取等を行っており、さらなる産業界から意見聴取等の実施を検討していることから、基準を満たしている。</p>	B

数理・データサイエンス・A I 基礎コアに係る点検・評価実施要領

数理・データサイエンス・A I 基礎コアに係る点検・評価は、この実施要領により行うものとする。

1 評価項目

「評価項目」については、情報戦略機構データサイエンス部門（以下「データサイエンス部門」という。）において定める。

2 評価基準

「評価基準」については、データサイエンス部門において定める。

3 点検の実施

データサイエンス部門及び全学教育センターが、点検を行う。

4 評価の方法

データサイエンス部門において評価基準に従い、評価を行い、次の「評価レベル」に基づいて三段階の判定を行う。

【評価レベル】

- A 評価基準に示している内容について、『優れた点』があり、十分に行われている。
- B 評価基準に示している内容について、概ね行われており、相応である。
- C 評価基準に示している内容について、改善の必要がある。